（別記）

令和７年度南伊豆町水田収益力強化ビジョン

１　地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

南伊豆町は中山間地で、農地の多くが急傾斜であり、営農条件が厳しく耕作が困難である。山間部の水田については、昔から林地を開墾した段々畑の水田のため、不整形で小規模であり、ほ場整備や大型化は難しい。

また、高齢化・担い手の不足による農業従事者の減少に伴い、不作付地の拡大が進んでいる。有害鳥獣の被害も深刻であり、耕作をしても収穫できないため、耕作をあきらめてしまうこともある。

２　高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

イチゴの多収品種やナバナ、トマト等その他高収益作物の導入を推進し、新規就農者へも情報提供を行っていく。

また、令和６年度に策定した地域計画に位置付けたとおり、新たな担い手法人の確保、町内複数農地の基盤整備による、レモンの栽培の強化に取り組み、地域農業の収益力強化を図っていく。

３　畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

青市野辺地区の基盤整備事業に係り、水田農業高収益化推進計画を作成。水利施設等保全高度化事業（公共）や高収益作物畑地化支援の活用を検討していく。

また、基盤整備事業後の農地活用を見据えた農業経営体の確保については、地域計画における地域の担い手を中心に、新たに地域参入を計画している法人への伴走サポートをすることで、将来にわたって地域農業が継続されるよう取り組む。

４　作物ごとの取組方針等

（１）主食用米

自家消費が中心であり、多品種が作付けられている。安全でおいしい米づくりを　推進する。

（２）備蓄米

作付けなし。

（３）非主食用米

ア　飼料用米

作付けなし

イ　米粉用米

作付けなし

ウ　新市場開拓用米

作付けなし

エ　WCS 用稲

作付けなし

オ　加工用米
作付けなし

（４）麦、大豆、飼料作物
麦は現行の栽培面積を維持する。
大豆、飼料作物は作付けなし。

（５）そば、なたね
そばは、地域の実需者と連携して、栽培面積の拡大を目指すとともに、安定生産できるよう推進していく。
なたねは作付けなし。

（６）地力増進作物
作付けなし。

（７）高収益作物
町として省力化作物である、化学肥料を使わずコストをおさえ、農閑期の労力で転作が可能である「ナバナ」及び、新規就農希望の多い「イチゴ」を拡大していく。これらの推進に向けては、新規の担い手を確保することや、就農地の確保、連作障害などへの対策が課題である。今後は、現状作付している農業者などから情報収集し、町ホームページなどでの広報、農業委員会、認定農業者などに作付けの協力を促し、作付け量を増やしていくことや、新規就農者の研修受け入れ先農家との連携を強化していく。
それ以外の野菜については、水田活用の直接支払交付金対象作物とし、町内販売農業者へ作付け協力を促し、作付け量を増やしていく。
花きについては、本町の特産物であり、重要な作物である。品質の向上をはかるとともに、集団的な転作を維持・定着化する必要性があるため、現行の栽培面積を維持する。特にマーガレットについては、色・花の大小異なる種類ができている。これら新品種の導入により、使用用途が広がり販路の拡大につながる。また、近年は豆の花やストレリチア等、新たな作物の耕作者もおり、これらの作付け拡大を図る。
果樹については、町内に多くある柑橘類や近年作付け量が増えてきている桜葉や栗、作付けしやすいウメなどを中心に推進していく。さらに、今後の基盤整備後に作付けが予定されるレモンについても作付け拡大を図る。

５　作物ごとの作付予定面積等　～　８　産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※　農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

別紙

５　作物ごとの作付予定面積等

（単位:ha）

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和８年度の作付目標面積等	
		うち二毛作		うち二毛作		うち二毛作
主食用米	17.9	0	17.9	0	17.9	0
備蓄米						
飼料用米						
米粉用米						
新市場開拓用米						
WCS用稲						
加工用米						
麦	0.2	0	0.2	0	0.3	0
大豆						
飼料作物						
・子実用とうもろこし						
そば	0.1	0	0.1	0	0.15	0
なたね						
地力増進作物						
高収益作物	21.7	0	21.8	0	22.1	0
・野菜	10.9	0	11	0	11.1	0
・花き・花木	1	0	1	0	1.1	0
・果樹	9.8	0	9.8	0	9.9	0
・その他の高収益作物	0	0	0	0	0	0
その他						
・〇〇						
畑地化						

６　課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	そば	そば（基幹作）に関する取組	取組面積	（令和６年度）13a	（令和７年度）14a （令和８年度）15a
			反収	（令和６年度）４kg	（令和７年度）46kg/10a （令和８年度）49kg/10a

※　必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。
※　目標期間は３年以内としてください。

7　産地交付金の活用方法の概要

都道府県名：静岡県

協議会名：南伊豆町

整理番号	使途 ※1	作期等 ※2	単価 （円/10a）	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	そば（基幹作）に関する取組	1	20,000円/10a	そば	町内に在住する農業者等

※1　二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇（二毛作）」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇（耕畜連携）」と記入してください。
　ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。
　なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇（耕畜連携・二毛作）」と記入してください。
※2　「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「１」、二毛作を対象とする使途は「２」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「３」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「４」と記入してください。
※3　産地交付金の活用方法の明細（個票）の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。
※4　産地交付金の活用方法の明細（個票）の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。